忘れられていた観光資源 淀川の舟運復活(1)

軌跡

2017/9/25 17:00

共有 保存 印刷 その他

かつて京都と大阪を結ぶ交通の大動脈は淀川の舟運だった。京都・伏見と大阪・八軒家の間(約40キロメートル)を三十石船が往復、江戸末期には1日に1500人、800トンの荷物が運ばれたという。明治以降も蒸気船が行き交ったが、鉄道、道路が整備されると舟運は衰退した。その舟運を復活させる動きが活発になっている。

9月10日、枚方市と八軒家を結ぶ定期観光船の運航が始まった。枚方市で毎月第2日曜日に開かれる「五六市」に合わせた運航だが、関係者の期待は大きい。事業化した大阪水上バスの久ノ坪宏司社長は「外国人観光客が増えた大阪中心部のにぎわいを淀川の舟運に波及させたいという行政からお話をいただいた。航路確保などで応援してもらえる態勢ができた」と語る。

画像の拡大

八軒家―枚方間で今月から観光船の定期運航が始まった

□ □

初運航の日は好天だった。八軒家の船着き場を出発してしばらくは川砂利の集積場や川船のドックなど陸側からは見えない風景が続く。大川と淀川本流の水位の違いを調整する毛馬閘門(こうもん)の通過体験は前半の大きな見せ場だ。1.5メートル程度水位が高い淀川に入ると川幅が一挙に広がり、視界が開けた。大阪都心部の高層ビル群が一望できる。「見事な景色だなあ」。乗船客から感嘆の声が上がった。

淀川・大川の舟運の経緯

1589年	豊臣秀吉、三十石船に朱印状を与える
江戸時代以降	伏見―大坂・八軒家を多数の船が運航
1910年	京阪電鉄、天満―京都五条間通。蒸気船の運航が急減
62年	伏見―大阪の貨物船輸送終了
83年	大阪水上バスが大川で通勤・観光用船の運航開始
95年～	阪神大震災で水上輸送が見直される。淀川沿岸に9カ所の緊急用船着き場を順次整備
2009年	水都大阪2009開催、舟運復活の機運広がる
15年	大阪商工会議所が舟運など淀川を活用した観光振興を提言
17年	大阪・八軒家―枚方で観光船の定期運航開始

画像の拡大

明治の河川改修時、水深確保のために流れを制御して作った閉鎖水域(わんど)が今も残る。水道水の取水口や洪水対策施設が次々に現れる。不定期観光船などで「淀川舟運語り部」を務めてきた●永(木へんに船のつくり、まつなが)正光さんは「淀川の堤防は過去230回くらい洪水で壊れてきた。対策の重要性も知ってほしい」と力を込めた。船旅は淀川の治水、利水の歴史を知る機会にもなった。

□ □

淀川の舟運が見直されたきっかけは阪神大震災だ。道路が寸断、鉄道も機能しない中、水上交通に目が向けられ、9カ所に緊急用船着き場が整備された。それを観光にも活用するため、今回枚方には看板が設置された。江戸時代、風光明媚(めいび)な光景から多くの文人・画家を魅了した淀川の舟行。長く顧みられなかった観光資源のすばらしさを多くの人が実感できれば、本格復活の動きが加速するかもしれない。

低い橋の下 通過に工夫 淀川の舟運復活(2)

軌跡

2017/9/26 17:00

共有 保存 印刷 その他

大阪都心部を流れる大川(堂島川、土佐堀川)の舟運には大きな問題がある。川面との距離(桁下高)が短い橋がいくつもあるのだ。大阪市役所近くの淀屋橋や大江橋はアーチ形の最も高い部分でも3メートル台。高さのある船は通れない。

1935年に建設された時には共に5メートル20センチ前後あったが、地下水のくみ上げによる地盤沈下で狭くなった。天神祭の神事・船渡御も、船が大江橋の下をくぐれなくなったため、53年からは川を遡る形に渡御のコースを変更した。

低い橋の通過に最初に挑んだのは大阪水上バスだ。1983年、屋根が30センチほど下げられる平べったい船・アクアライナーを開発し、大阪城や中之島周辺を巡る周遊などを始めた。

画像の拡大

船体を低くして堂島川の大江橋の下を通過する一本松海運のクルーズ船

ただ、舟運に対する関心は高まらず、「景気が悪化した2003年ころまでの数年間は特に経営的に厳しかった」(久ノ坪宏司社長)という。川はきたなく、川べりの建物も川側に背を向けエアコンの室外機ばかりが目立っていた。

その後、水都大阪の街づくりで川の近くに遊歩道が整備されたり、川側にテラスや店舗を設けたりする動きが広がり、遊覧船の利用者も増加基調になった。

「赤字が続いたが我慢して営業してきた。好調になったのは訪日外国人の増加以降です」。堂島川や木津川、道頓堀川、東横堀川の「水の回廊」を一周するなにわ探検クルーズの運航をしている一本松海運の一本松栄社長は振り返る。

旅客船事業を始めたのは01年。低い橋を通過できるよう船底のタンクに水を取り込んで船体を沈める旅客船を開発した。大阪国際会議場―日銀大阪支店の間の堂島川を夕方から運航するクルーズも始めた。「道頓堀に集中しているクルーズ客を中之島の西エリアにも広げたい」と意気込む。